

**June 1989**

**The Situation in China - Main Points of Minister's  
Remarks at Japan - United States Foreign Ministers'  
Meeting**

**Citation:**

"The Situation in China - Main Points of Minister's Remarks at Japan - United States Foreign Ministers' Meeting", June 1989, Wilson Center Digital Archive, 2020-0545, Act on Access to Information Held by Administrative Organs, published online by the Ministry of Foreign Affairs of Japan. Translated by Stephen Mercado.

<https://wilson-center-digital-archive.dvincitest.com/document/300579>

**Summary:**

Highlights Japan's ongoing understanding of the situation in China following the Tiananmen Square incident in 1989, Japan's China policy, implications of U.S.-China relations to Japan, future China policy, and an explanation regarding Japan's future economic cooperation with China.

**Credits:**

This document was made possible with support from The Woodrow Wilson International Center for Scholars

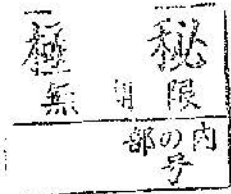
**Original Language:**

Japanese

**Contents:**

Original Scan

Translation - English



中 国 情 勢 — 日米外相会談大臣発言要領 —

(現状認識)

現時点においては、鄧小平・楊尚昆・李鵬の強硬派ラインで事態が収束に向かいつつあると認められるが、まだ不透明な部分も残されており、今回の事態が最終的にどのような形で結着をみるか（党中央委の開催、趙紫陽等の罪<sup>（注）</sup>どこまで累が及ぶか）に注目している。

他方、当面いかなる結着をみるにせよそれによって中国が永続的な安定を確保し得るとも思われない。一旦火のついた民主化要求は容易に圧殺し得るものではなく、今後とも折々の機会（例えば鄧小平の死）にこれが顕在化するであろう。かくして、中国情勢は当分の間不安定のうちに推移するとみるべく、我々は引続き注意深くこれを観察していく必要がある。

(我が国の対中政策)

一、我が国は中国が十年来進め来たった、いわゆる改革・開放政策、「近代化」への努力に対して、これを支持し、可能な限りの協力（政府首脳以下の活発な交流、積極的なODAの供与等）を行ってきた。かくすることが穏健にして安定した中国を確保する所以であり、そのような中国の存在は、アジアひいては世界にとって望ましいとの基本的な考え方に基づくものであった。この点米政府も同様の考え方であったと理解する。

二、従って、今般の中国の事態は、まことに残念という他はない。中国との関係発展に向け、活発に進めて来た交流協力関係も当面大きな制約を受けざるをえない状況にたち至った。

三、日本政府は今回の事態に対し、次のような対応を行ってきた。

(一) 政府として、あるいは私自身国会において以下の通りの考え方を明らかにした。

(イ) 過般の学生等に対する武力鎮圧は、まことに遺憾であり、人道上の見地から容認し得ない。

(ロ) (みせしめ逮捕、密告の奨励等) 最近の中国政府による学生・一般市民に対する取締強化は、

それが中国の内政問題であるとしても、我が国の基本的価値観とは相容れないものである。

(ハ) 日本政府としては事態がこれ以上悪化せざるよう中国政府に強く自制を求めるとともに、中国情勢が一日も早く正常に復することを期待する。

(ニ) 政府ベースの経済協力を一部地方における技術協力を除き、すべてこれを中断した。

(三) 日中間のハイ・レベルの交流、各種ミツシヨンの中国への派遣も事態が正常に復するまでの間これをを行う考えはない。

(四) 在日中国人留学生等について先方から中国情勢の変動を理由として、在留期間の更新申請があった場合には、本人の申し立てる諸事情も勘案し、ケース・バイ・ケースで弾力的に対応する。

(五) 医薬品等の緊急援助を行う用意が、日表明  
(米中関係)

その間にあつて我々は、米中関係の行方を深刻に心配している。我が国には中国という国柄からして、米中関係の悪化が国内における排外運動に広がることを懸念する向きもある。日本の国会等においては、方励之問題の解決のため、日本が何らかの役割を果たすべきとの声も聞かれる位である。

米中関係が悪化する状況の下で、日中関係の方は良好に推移するということは、ありえぬことである。方励之問題については米中間において真剣な折衝が継続中と承知するところ、米中双方が大局を見失

わず、早急にこれが何らかの解決に至ることを強く期待している。なお、今回の事態発生以後の米國政府の対応振りについては、米議會筋からは声高な声も聞かれるが、全般的に抑制とバランスのとれたものとして、日本政府は評価している。中国に經驗の深いブツシユ大統領、ホワイト・ハウス、財務長官時代を通じ中国要路にも友人の多い貴長官の采配振りに全幅の信頼を置いてゐる。

今次会談においては、貴長官より米側のお考えもしかとうかがつた上で、日本独自の立場から私より中国要路に対し中国側の冷静な対応振りが強く期待される所以を伝えることも検討してみたい。

(今後の対中政策)

一、我々が現在直面している状況は、一口で申せば二つの矛盾する立場の調整を迫られているといふことである。即ち、中国当局の一連のやり方に対しては、右は許されざるものとして、政治的、道義的な立場を表明すること。しかし、他方において、中国を再び國際社会において孤立化させ、西側がこれを見捨てたという感じを与え、ひいては、対ソ接近に迫いやることがあつてはならないこと、という二つの矛盾した立場である。その間にあつて、我々としては慎重なバランスのとれた判断が求められる次第であるが、他方西側各国が置かれた状況（国内事情、中国とこれまでの關係等）により、そのものの言い方に若干の濃淡が出てくることはやむをえないところである。

二、先般の中国の事態に対し、公けに或いは内々言うべきことは言うとの毅然たる立場は堅持しつつも我が国としては、少なくとも中国情勢に係る公式発言については全体として用心深く対応してきた。国内の一部には、このような政治の対応振りに満足せざる向きもないが、政府のつてきたこのような慎重な対応振りは概ね国内の支持を得ている。その背景には

(一) 中国当局のやり方には多々遺憾な点はあるが、本件はやはり基本的には西側と政治・社会体制や価値観が異なる中国という国の国内問題と言わざるを得ないこと。

(二) 西側の価値観をもの指しに従って一方的にこれを声高に非難することは却って中国を孤立化の方向へ追いやることになりかねないこと。なお、アジア諸国が欧米先進諸国と異なる点の一つは、これら諸国が近代的な政治社会の定着のために苦勞していることであり、こういうアジアの現実にたいては西側諸国の尺度をあてはめて是非を論ずることは、この地域の安定に資するものではないと考えている。

(三) 東アジアにおける安定した日中関係の維持は、同地域における平和と安定にとつて不可欠であるという認識に立ち、これまで営々として築いてきた幅広い日中関係を無に帰することは是非とも避けたい。といった諸点についての国民の理解、気持があるものと認められる。

三、我が国の今後の対中経済協力について説明すれば次の通りである。

(一) 中国が近代化及び開放政策を維持する限りにおいて、出来る限りの協力は続ける。

(二) 我が国としては、政治的な約束を含め、我々が中国側に対して行った合意・約束は守る。既に約束済みの案件は、実施環境の整うのを待つて静かに継続していく考えであるが、その間に調査団等の派遣は行わず、遅れが生ずるとしても、やむを得ないと考えている。

(三) 新規案件は、諸般の事情を勘案し、当面は一定の延期措置をとりつつ、状況を見守る。なお、昨年八月竹下総理大臣より意図表明した第三次円借（一九九〇～一九九五年の六年間に八一〇〇億円）については、約束違反になることはしない。

四、七月のサミット等の場で、中国情勢を巡る活発な意見交換が予想されるが、サミットにおいて今

次事態に対する何らかの認識を表明することはありえても、中国情勢が現状のまま推移する限り右を越えて、例えば西側としての共同制裁措置等に至ることは前述のような基本的考え方から日本は賛成し難い。

五、中国はその近代化への過程において今後とも今回の如き折々の挫折を経験することとなる。要はそのような事態に対して、我々は、過度に反応したり、いたずらに感情的になったりすることを避け、息長くかつできるだけ温かい目で中国側の状況を見守っていくことであると思う。

日米間において、具体的政策措置等の面で違いはあるもののそれぞれの対中政策の間に大きな乖離が生じることは許されざるところである。中国情勢が流動的な折から今後とも両国政府の間であらゆるレベルにおいてこの面で緊密な協議を重ねて行きたい。

(応答要領)

(日本商社員等の中国への帰還について、)

本件については私としても留意。記者会見、国会等の場で関係企業の自制を求めて来たところである。日中経済関係のこれまでの実績もあり、国際的に目立ち易いとの側面もあることは確かであるが、政府としては、今後ともいろいろな形で、このような考え方を経済界に伝えて参りたい。

(死刑を含めた弾圧の強化について、)

一、本件は基本的に中国の司法の枠組みのなかで行われたものであるが、取締の強化等先般来の中国政

府の一連の措置により、国際社会のなかにおける中国のイメージが大きく傷つけられたことは否定出来ない。近年、改革・開放政策のもと、近代化を推進してきた中国の努力を支援してきた我が国として残念。

二、六月四日以降の事態については、我が国も含め世界各国がそれぞれの立場から、或いは憂慮し、或いは心配しているところ、中国がこのような国際的な声にも耳を傾けることを期待。

(さらに、中国に対し、申し入れ等を行わないのかと問われる場合、)

この事案の処理について申し入れを行うことは考えていない。  
個々

Secret

Indefinite Duration

The Situation in China – Main Points of Minister’s Remarks at Japan – United States Foreign Ministers’ Meeting

(Understanding of the Current Situation)

At this time, there is a recognition that the situation is returning to normal through the hardline faction of Deng Xiaoping, Yang Shangkun, and Li Peng, but much remains uncertain. We are watching to see how the current situation will settle in the end (how much trouble is caused by the holding of the Party Central Committee, the charges against Zhao Ziyang, and others).

On the other hand, no matter what sort of settlement emerges for now, it is unthinkable that China will thereby be able to secure a lasting stability. Once popular demands catch fire, they cannot easily be suppressed. In the future, too, there are likely to be occasions (such as the death of Deng Xiaoping) when they will come into the open. Thus, the situation in China is expected to remain unstable for the time being. We need to continue observing it with care.

(Japan’s China Policy)

1. Japan has supported China’s efforts these past 10 years towards “modernization” in what is called its policy of opening and reform and has engaged in cooperation to the extent possible (such as active exchanges between leaders and those below them, and the proactive provision of official development aid). Our reason for doing so has been to ensure a moderate and stable China. The basis for this is the basic thinking that the existence of such a China is desirable for Asia and, in turn, the world. Our understanding is that the US Government, too, was thinking the same way on this point.

2. Therefore, the recent situation in China is nothing but truly regrettable. In relations of exchange and cooperation, which we have actively advanced toward the development of relations with China, we have come to a situation of having to accept major restrictions for the time being.

3. The Government of Japan in response to the current situation has taken the following measures:

(1) The Government, and I myself in the Diet, have made clear the following thoughts:

(a) The recent armed suppression of the students and other is truly regrettable and unacceptable from a humanitarian point of view.

(b) The recent strengthening of the government controls against students and average citizens (including arrests as a warning to others, and encouraging people to inform on others) is, even as China’s internal affair, incompatible with Japan’s basic values.

(c) The Government of Japan, along with calling strongly on the Chinese government for self-restraint so as not to worsen the situation, hopes that the situation in China returns to normal as soon as possible.

(2) With the exception of some regional technical cooperation, we have suspended all economic cooperation on a governmental basis.

(3) We have no intention of carrying out high-level exchanges between Japan and China or sending various missions to China until the situation returns to normal.

(4) In the event of Chinese students in Japan applying for a renewal of their period of stay for the reason of the changes in the situation in China, we will respond case by case with flexibility, taking into consideration a student’s declared circumstances.

(5) We express our willingness to provide medical supplies and other emergency assistance.

(US-China Relations)

Meanwhile, I am deeply worried over where relations between the United States and China are going. In Japan, there is apprehension that, given China’s national character, the worsening of relations between the United States and China could



broaden within China into an anti-foreign movement. Some are even calling in the Japanese Diet and elsewhere for Japan to play some sort of role to resolve the Fang Lizhi issue.

With relations between the United States and China worsening, a favorable progression in Japan-China relations is impossible.

Concerning the Fang Lizhi issue, I understand that serious negotiations are taking place between the United States and China. We strongly hope that the US and Chinese sides do not lose sight of the overall situation and that they come to some sort of resolution as soon as possible. Also, although there have been some loud voices coming from the US Congress, the Government of Japan appreciates the overall restraint and balance of the US Government's reaction to this situation. I have full confidence in the leadership of President Bush, with his deep China experience, and in yours, Secretary Baker, with your many Chinese friends in positions of authority from your time at the White House and as Treasury Secretary.

Having clearly heard in this meeting from you, Mr. Secretary, the thoughts of the US side, I would like to consider conveying to persons in positions of authority in the Chinese government why we strongly hope for the Chinese side's calm response.

(Future Policy Toward China)

1. The situation that we are presently facing, to put it simply, is one of being pressed to reconcile two contradictory positions. That is, in response to the series of actions of the Chinese authorities, we express a political and moral position that what they have done is unacceptable. On the other hand, however, it will not do to make them feel that we are once again isolating China from international society and that the West is abandoning them or, further, to drive them into rapprochement with the Soviet Union. These are the two contradictory positions. Between them, careful and balanced judgment is required of us. On the other hand, depending on the situation of each Western country (domestic situation, relations to date with China, and such), it is probably inevitable that there will emerge some differences in how they speak of it.

2. In response to the recent situation in China, while adhering to a firm position of saying what needs to be said publicly or in private, Japan has responded on the whole with caution, at least in its official statements, regarding the situation in China. While there may be some in Japan unsatisfied with such a political response, such a careful response on the part of the government has by and large gained domestic support. In the background to this is the following:

(1) There are many regrettable points in the course of action taken by the Chinese authorities, but one has to say that the matter is basically the internal affair of China, a country whose political system, social system, and values differ from those of the West.

(2) Loudly criticizing from one side according to the yardstick of Western values may drive China all the more in the direction of isolation. Furthermore, one point of difference between Asian countries and the advanced countries of the West is that Asian countries are having a hard time establishing modern political societies. I believe that arguing right and wrong in applying the standards of Western countries to the realities of Asia will not contribute to the stability of this region.

(3) Taking the position that the maintaining of stable relations between Japan and China in East Asia is indispensable to peace and stability in the region, we would like to avoid by all means the wide-ranging Japan-China relations that we have toiled to build coming to naught. It is recognized that the public is understanding and in agreement concerning these points.

3. An explanation regarding Japan's future economic cooperation with China is as follows:

(1) We will continue cooperation to the extent possible so long as China adheres to a policy of modernization and opening.

(2) Japan will abide by its agreements and keep its promises, including political promises, to the Chinese side.

Our thinking is to quietly continue with projects to which we are already committed, while waiting for improvement in the implementation environment. Meanwhile, we will not send out survey teams and the like. Our thinking is that, even if delays

develop, it cannot be helped.

(3) We are postponing new projects to a certain extent for now, in consideration of various circumstances, and keeping an eye on the situation.

We will not break our promise on the Third Yen Loan (810 billion yen over the six-year period of 1990 - 1995), which Prime Minister Takeshita announced in August last year.

4. A lively exchange of views on the situation in China is expected at the July Summit and elsewhere. Even if an expression of some sort of recognition regarding this situation is possible at the Summit, as long as the situation in China continues in its present state, Japan will have difficulty agreeing to anything beyond what has already been said, such as joint sanctions on the part of the West, due to our basic thinking, which I have already mentioned.

5. China will probably experience future setbacks like this one in the process of its modernization. I think that the key here is for us to avoid overreacting or becoming pointlessly emotional and to keep a close watch on the Chinese side's situation with patience and as much warmth as possible.

Between Japan and the United States, although there are differences in specific policy measures, it would be unacceptable for there to emerge a major divergence in the direction of our respective policies on China. As the situation in China remains fluid, I would like our two governments to continue holding close consultations on this issue at all levels.

(Questions and Answers: Main Points)

(Concerning the return to China of Japanese trading company employees and others)

I have also taken note of this matter. In press conferences and in the Diet, I have called on the companies involved to show restraint. Given the accomplishments to date in Japan-China economic relations, there is certainly an internationally conspicuous aspect to them. The government will continue to convey this thinking to the business community in various ways.

(Concerning the strengthening of repression, including executions)

1. Although this has taken place basically within China's judicial framework, one cannot deny that China's image in international society has been greatly damaged by the Chinese government's recent series of measures, including the strengthening of controls.

2. Concerning the situation since June 4, countries all over the world, including Japan, are concerned or worried on the basis of their particular positions. I hope that China will listen to such international voices.

(Also, if questioned whether you will make a representation to China)

We are not thinking to make a representation concerning the handling of individual cases.